



第2回いじめ防止等対策委員会を開催しました

16日(月)にスクールサポーターの河原田 隆さんをお迎えして、第2回いじめ防止等対策委員会を行いました。会には、本校の生徒指導、人権教育の各担当者、低中高学年の生徒指導担当者、養護教諭、教頭、そして校長の私が参加しました。

まず生徒指導担当より、今年度の本校におけるいじめの実態について報告がありました。

「友だちに遊ぼうと言ったのに、遊んでもらえなかった。」

「友だちから嫌なことを言われた」等…

具体例を示しながら、各月のいじめ件数の報告がありました。

続いて人権教育担当より、毎月の「きずなアンケート」での気づき、

また本校で取り組む「あのね」の時間について説明をしました。

その後、意見交換の場を設けました。

・『あのね』の時間は、子どもにとっても、私たち(教師)にとっても1対1で話ができる時間なので、大切にしたい。」

・「子どもたちに、何か嫌なことはない?とマイナス面から聞くと話しにくいので、リラックスした雰囲気話を聞けるようにしている。」

・「子どもたちのトラブルが解決した後も、『最近はどう?』とフォローすることが大事だと思う。」

等々の様々な意見が出されました。



また、スクールサポーターの河原田さんから SNS に関する情報や問題について助言がありました。これを受け、養護教諭が「本年度は学校保健委員会でメディアに関するトラブルや気を付けることに取り組んだので、『この前、学校保健委員会でも話をしたけど…』と学習したことを再確認しながら子どもたちに話すことができ、個々の事案に対しても指導しやすかった。」と話しました。

さらに学校評価アンケートの結果についても、意見を交わしました。「学校には、子どもが助けを必要とするときに、先生や友だちから支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか」の質問には、児童は回答の90%、保護者は84%が肯定的な回答を寄せていますが、「わからない」という回答も一定数(児童の5%、保護者の10%)あり、教職員はその声にならない思いを丁寧に受け止めていくこと、また本校の取組をより分かりやすく保護者の皆様に伝えていく必要性を確認しました。

最後に河原田さんから、「ニュースでいじめの動画をネット上にアップした事例がありますが、撮られた側の人権に関わるような、いろいろな問題を含んでいます。スマホやタブレット等の使い方に関しては、保護者が子どもと一緒に使う時のルールを作り、その後も子どもがどう使っているのかしっかりと見守っていくことが重要です。」とのご助言をいただきました。

私は、学校はまず「いじめられた子どもの不安に寄り添い、安心して学校生活を送れるようにすること」を何より大切にすべきだと考えています。

そのうえで、「いじめてしまった子の心を見つめ、より良い行動が取れるように育てていくこと」も、同じように重要な役割です。

いじめのない学校、そしてどの子ども明るく、生き生きと過ごせる学校をめざして——。子どもたち一人ひとりの未来を大切にしながら、ともに歩んでいける学校であり続けるため、これからも努力を重ねてまいります。



※きずなアンケート…いじめ等の問題を早期に発見し、早い段階で適切な指導を行うため、また児童生徒に見守られているという安心感を持たせ、安心して通える学校づくりを目的として、毎月第3週目に実施、その月を振り返る。

※「あのね」週間……担任との面談を通し、子どもたちが自分の思いを話し、安心して学校生活を送れるようにすることを目的として、年2回、6月と2月に実施。